

## ◆シンポジウム

### 平成 27 年度シンポジウム「ナマコ類の生態とその役割」

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人

平成 27 年 12 月 10 日に、名護市役所羽地支所会議室において平成 27 年度シンポジウム「ナマコ類の生態とその役割」が開催され、海人、漁協職員、役場等約 30 名が参加した。ここでは、その概要について述べる。

本シンポジウムは、3 名の識者に講演を依頼し、以下のタイトルと内容で発表が行われた。

#### 1. ハネジナマコの産卵生態と種苗生産

講演者：水産海洋技術センター石垣支所 南 洋一主任研究員

沖縄県で漁獲されているナマコ類の中でも、特に市場価値の高いハネジナマコについて、産卵期（5～10 月）や成熟サイズ（600 g 以上）が紹介された。また、種苗生産試験の結果や養殖の可能性について言及があり、ハネジナマコが商品サイズに達するまでに 5 年以上を要すこと、大量の種苗を生産するためには、種に応じた採卵技術の開発が不可欠であることが報告された。

#### 2. 沖縄に生息するナマコ類の種類と生態的役割

講演者：沖縄県立芸術大学准教授・沖縄

海区漁業調整委員 藤田喜久博士

現在、沖縄県で漁獲されているナマコ類の種類について紹介があり、まだ分類学的に混乱しており、整理が必要な状況であることが述べられた。また、ナマコ類が生態系の一員として果たす役割についても紹介があり、ナマコ類は大量の底質を食べることにより藍藻類の繁茂を抑制すること、ナマコ類の生存が海草の成長にも重要な影響を与えていること等が示された。

#### 3. ナマコの生態特性と資源管理

講演者：水産海洋技術センター海洋資源・養殖班 太田 格主任研究員

沖縄に生息するナマコ類について、海外での研究事例を中心に、成長や寿命、成熟サイズなどの生態特性が紹介された。また、海外での資源管理（主に禁漁区を設定）の事例についても紹介があり、資源が回復するまでに年数を要することが示された。



採卵技術の可能性について質問に答える南氏



藤田氏の講演を聴き入る参加者



質疑応答・意見交換の様子